
Japan Region



Volume 16

No. 4

July 1998

「未来を展く」

“Create the Future”

目 次

Table of Contents
Vol. 16, No. 4, July 1998

日本リージョン会長基調演説	Japan Region President's Keynote Speech	1
I T C 公式訪問者挨拶	Greetings from ITC Official Visitor	3
I T C ニュース	News from ITC Headquarters	5
第16期日本リージョン年次報告	The 16th Japan Region Annual Report	6
日本リージョン会則・常規修正	Amendments of Japan Region Bylaws and Standing Rules	8
委員会年次報告	Annual Reports of the Committees	10
日本リージョン事務局報告	Japan Region Office Annual Report	13
第16回日本リージョン年次大会報告	The 16th Japan Region Annual Conference Report	14
I T C 世界大会1999	ITC Convention 1999 Japan	22
祝 新クラブ誕生	Congratulations, Newborn Club	23
I T C ひ・ろ・ば	ITC Square	24

会長基調演説

President's Keynote Speech



日本リージョン会長 三宮 晶子

今期、役員会は短期目標の一つに「事務局管理体制の整備」を掲げました。日本リージョンは会員数1927名、クラブ数80の大きなリージョンに成長いたしました。組織が大きくなりますと事務局の存在はより重要となり、管理体制の整備が必要となつてまいります。事務局の仕事は現在一部の会員の貢献によって運営されております事は皆様ご存じの事と存じます。そこで特別委員会を任命し研究検討いたしました結果、委員会の報告に基づき、最初のステップとして、事務局に関する会則、常規の修正案を役員会より提出いたしました。

今後、コンピューターの活用によって繁雑な事務の効率化が進められる予定です。

今期は又、会員の皆様に地球規模の広い視野でITCを考えて頂く機会でもございました。

その一つはITC 2000年の機構に関する選択肢のアンケートがITC役員会から送られてまいりました。どの選択が世界のクラブにとって、日本のクラブにとって一番良いのか、検討いたしました。Div. IVのVice PresidentからDiv. IVの中では4つのレベルは変わらないという通知を受取りました。リージョンメールでクラブにお知らせ致しましたので、皆様ご存じのことでございます。

又、1999年世界大会のホステスリージョンとしての活動の下準備の時期でございました。リージョン会報でご覧のように、日本の中の準備委員会が構成されました。資金の面ではカウンスルを通じて、又コーヒ一杯運動で会員の皆様の積極的なご協力をお願いしてまいりました。リージョン役員会もリージョン基金より上限500万円を支出する決議案を提出いたしました。日本リージョンの全会員が協力して日本での世界大会を成功させましょう。

「未来を展く」のテーマのもとに今期はスタート致しました。日本リージョンの未来を築く為に、今私たち会員がしなければならない事は何でしょうか？

世界の情勢の変化にともなうITCも変化いたします。変化を受け入れるには、柔軟な心や、意識の改革が必要と思います。日本の会員も有識者がふえております。時間を有効に使う事を考えなくてはなりません。「忙し過ぎる」を無くすためには、もっとスリムになりたいと思います。改革には勇気もいりますし、リスクもあるかもしれません。でも誰かがしてくれるのを待っていては、何も変わらないのです。一年間会長をさせて頂いて、もう一度皆様をお願いしたい事がございます。

しかし、私達会員が目指すコミュニケーション、リーダーシップ、組織運営の技術、そして自己啓発の4つの目標のトレーニングは変わらない事を心に留めたいと思います。

日本リージョンの「未来を展く」為に、長期的展望にたつて「可能性を求めて」まいりたいと思います。

Keynote Speech

Akiko Sangu
Japan Region President

The Japan Region Board declared to establish administrative system as one of the short-term goals at the beginning of this term. The Japan Region has enormously grown to encompass 80 clubs and 1,927 members. The bigger the organization becomes, the more necessary the office and its systematic administration become. The Japan Region Office has been managed by volunteer members, as you know. So, I appointed the special committee to consider the state of the office affairs. According to the report of the committee, the Japan Region Board presented the amendments of the Japan Region Bylaws and Standing Rules concerning it to begin with.

The introduction of the computer system will raise the efficiency of the office work hereafter.

This term was also the time for us to consider our ITC from the global point of view.

For example, we had to draw our conclusion to make our option for ITC 2000 Structural Reform presented by the ITC Board. Which option is the best for the clubs in the world, and the clubs in Japan? As for it, we were informed by Division IV Vice President that the 4 levels will continue unchanged in Division IV as written in the Region mail sent to each club.

Besides that, we started to prepare for the 1999 World Convention as the region in charge. The Preparatory Committee was formed and "One Cup of Coffee Campaign" is still being continued. The Japan Region Board submitted a resolution to this conference to propose that 5 million yen in the highest limit could be paid from the Japan Region Fund. Let's work together to achieve a successful convention.

We started this term under the theme "Create the Future". What should we do to create the future of the Japan Region, now?

As the world is changing, ITC will have to change. Before that, it is necessary for us to have flexible minds and reformed consciousness. We have to use our time efficiently, there being more knowledgeable members in the Japan Region. We will be able to avoid "being too busy" by shedding the superfluousness. We need courage in order to reform, and the risk may follow it. But, only waiting does not bring any changes. This is my request of which I would like to remind you as your President after one year service.

But we want to keep in mind that our four goals, training in communication, leadership, management skills and self-development are not to be changed.

I sincerely hope that we will strive to seek the possibilities in order to Create the Future basing on the long-term view.

ITC公式訪問者挨拶

Greetings from ITC Official Visitor



Mary H. Moorhouse, D.C.
International President 1997-98

On behalf of the International Board of Directors of International Training in Communication, it is my pleasure to extend greetings to the members and guests of Japan Region.

I am most fortunate to have been honored by being assigned to officially visit the Japan Region and have the privilege to meet personally your many members who do not often come to the ITC Convention.

This is my third visit to your beautiful country. I visited once in the early 1960's, and again in about 1985 and now in 1998. I intend to return in 1999 to participate in the ITC Convention that is hosted by the Japan Region.

This is a busy time for Regions around the world and the International Board of Directors.

This time of the year finds your International Board of Directors participating in Region Conferences in South Africa, Mexico, and the States of Kentucky, Texas and Virginia.

So you can see, your Board is working diligently this month to train, evaluate, and share the latest news from the International Board and ITC Headquarters with members around the world.

When we began this term, as your International President, I asked each of us to get involved in ITC and share the responsibility. Japan Region, under the leadership of Akiko Sangu and the Region Team have met the request of the International President by implementing actions that will result in fulfilling this President's vision.

The International Board of Directors believe that they have delivered the Dream because Japan Region members have shared the responsibility.

I T C役員会を代表いたしまして日本リージョンの会員の皆様、そして、お客様にご挨拶をさせていただきますことを、うれしく思っております。

そして今回、公式に日本リージョンを訪問いたしまして、あまり世界大会に出席する機会をお持ちでない会員の方々とも親しくお目にかかることができますことを、とてもうれしく、また光栄に存じます。

私がこの美しい日本を訪問いたしますのは、これで三度目なのです。最初は1960年代の始め、二度目は1985年頃、そしてこの度、1998年ということになります。1999年にはまた、日本リージョン主催の世界大会に参加のために訪日させていただくつもりです。

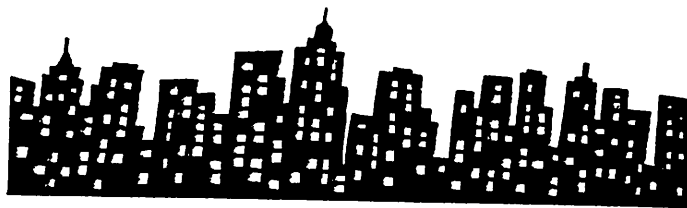
今は世界中のリージョンや国際役員会にとって忙しい時期です。

この時期、国際役員会のメンバーは南アフリカ、メキシコ、ケンタッキー州、テキサス州、ヴァージニア州で開催されるリージョン大会を訪問いたします。

ですから、ご承知のように皆様の役員会では、今月は、訓練に、評価に、そして世界中のメンバーに国際役員会やI T C本部からの最新の情報をお伝えすべく、入念な活動をいたしております。

今期のはじめ、私は国際会長として皆様方に積極的にI T Cに取り組んでいただき、共に責任を果たしていただきたいと思いますとお願ひ致しました。日本リージョンは、三宮会長の指揮のもとリージョン・チームが努力され国際会長のヴィジョンの実現に忠実に従って下さいました。

日本リージョンの会員の皆様方は、共に協力の上、責任を果たされたのですから、夢を実現されたことと国際役員会では確信いたしております。



ITCニュース

News from ITC Headquarters

公式訪問者 メアリー・ムアハウス

今期ITCでは、ITCの諸々の問題に取り組みました。メアリー・ムアハウス会長のもと役員会では、会員数増加に支障をきたすような問題点、及び、私達の組織の将来の在り方に重点をおきました。「夢を実現し、責任を受け入れる」という今期のテーマに基づきマーケティング可能なエリアで行動を起こすとともに、ITCのプロフェッショナルで公的なイメージと諸々の手順の改善に努めたのです。

フェニックス・プロジェクトはプレム委員長のジェーン・ゴルマー第一副会長のもと、各ディヴィジョン副会長とも協力して新クラブのチャーターを目指しました。最多クラブをチャーターしたリージョンには世界大会で300USドルの賞金が与えられます。さらに、会員数が1997年5月31日の会員数より増加しているリージョンには、100USドルが与えられます。テイク・ファイブ・プログラムは今期も続けました。5名の新会員を紹介した人には、特製の#5ピンが与えられる上に来期のITC会費が免除されます。#5ピンは新会員を5名紹介する度に与えられます。(会費が無料になるのは二年までです)

会員数の問題は依然としてITCの関心事でしょう。現在、全会員数は10,650名です。これは昨年と同時期と比べて、737名の減少となっております。しかし、その中には、まだ見込みのある会員の数も含まれています。1998年4月以降、14の新しいクラブがチャーターされました。これは1996/97年度のチャーター・クラブ数の2倍以上なのです。ITC役員会は、1,000名の新会員をという目標を達成いたしました。今期、1,326名が新しく入会されました。今の会員数がどうのこうのということより、その数が将来の可能性を示してくれるということでしょう。

役員会ではブライト・アイデア・プログラムも続けており、ITCを広めるために新しいアイデアを提供したり、会合、プログラム、増設などに新しい取り組み方を試みた会員を讃えたいと思っております。このことは、コミュニケーターを通じてご承知のことでしょう。表彰は世界大会で行われることになっております。

マネージメントの新しいアプローチとしてのPEPが各リージョン大会で行われました。より高度な訓練を望むリージョンに対しては、更に4時間のメンートル・モジュールと呼んでいるトレーニングも提供致しました。

ITC網(ウェブ)も改良され、新しく展示室、及び談話室ができました。会則修正案、会則改訂版、ITCビデオ等といったものが備えられておりますので、お暇な時にでもご覧になって下さい。また、コンベンション終了後はITCスピーチ・コンテスト及びライティング・コンテストの優勝者達の名もホーム・ページに加えられるでしょう。

ダイヤモンド年ということで、広報活動もいくつか致しました。「ダイヤモンド・アニバーサリー」記念葉書、マグネット、サンキュー・ノート(メモ用紙)等を作りました。ダイヤモンド記念葉書は、各リージョンのプレム委員長にお渡しして広報活動に使っていただくことになっております。物品カタログに以下の物が加わりました。ご検討下さい。

クラブ・カウンスル・リージョン会長用ネーム・バー/ITCロゴ入りスティック・メモ
卓上用メモ・ホルダー/ITCロゴ入りカンバス地トート・バッグ
ダイヤモンド年記念マグネット

また、下記の出版物も新しく加わりました。

「プロトコール・マニュアル」「スピーカーのためのマニュアル」

「書状による効果的なコミュニケーション」「目的意識のあるカウンスル・プログラムの作成」

「コミュニティー・サービスへの準備：その手引き」

◎このITCよりのニュースは、ITC国際会長が第16回日本リージョン年次大会に於いて編集者に手渡されたものの翻訳ですから時制にご留意下さい。

第16期日本リージョン年次報告

The 16th Japan Region Annual Report
(1997-1998)

日本リージョン書記 片桐寛子

第16期日本リージョン役員会は、1994年8月採択の日本リージョン声明文「ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供し、リーダーシップをそなえた成熟した社会人を養成し社会に貢献することにある」を継承し、会則・常規及び役員会方針に基づき、三宮晶子会長テーマ「未来を展く」に沿って、以下の活動を行った。

- 長期目標： 1) 1999年世界大会の成功
2) リージョン組織運営の効率化

- 短期目標： 1) 事務局管理体制の整備
2) コンピューターの活用

役員会は三宮会長のもと、現在までに8回、大阪、京都、名古屋で開催された。また、通信役員会が1回行われた。

役員6名と議会法規役員が年1回、8カOUNSLへの公式訪問を行なった。

クラブ及びカOUNSL宛にリージョンメールを合計5回、ITC2000年機構改革についての文書を1回発送した。

リージョン会報は4回発行予定で、これまでに3回発行し、全会員に配布した。

日本リージョンは今期8カOUNSL78クラブでスタートしたが、1998年2月12日、阿波クラブが認証番号3657、同日、岡崎クラブが認証番号3658で認証され、阿波クラブはカOUNSL№5に、岡崎クラブはカOUNSL№1に配属された。また、アクア千葉クラブが1998年6月に認証される予定である。5月20日現在、日本リージョンのクラブ数は80、会員数は1927名である。

会期半ば、須知繁子次期会長の辞任により、役員会は後任者として江藤万里子を選出した。

長期目標1)の「世界大会の成功」に向けて、ホステスリージョンとして全面的な協力を申し合わせた。1998年1月には世界大会開催のための公式視察に来日したジーン・ターナーITC次期会長を迎えた。世界大会の資金面の援助のため、役員会は日本リージョン基金の拠出についての決議案を年次大会に提出した。また、3年計画の「コーヒー杯積立て運動」を継続し、年間目標額各90万円に対して第1期72.3%、第2期77.0%を達成し、2期分の合計金額は5月20日現在1,343,466円である。

長期目標2)の「リージョン組織運営の効率化」は、会員異動報告ルートの簡素化をはかり、カウンセル、クラブを対象に研修を行った。

短期目標1)「事務局管理体制の整備」は、事務局体制研究特別委員会を任命し、研究を依頼した。その報告に基づき、役員会は事務局の構成、財務に関するリージョン会則修正案を提出した。

短期目標2)「コンピューターの活用」については、コンピューターシステム化特別委員会を中心に準備を進め、1998年1月、リージョン事務所に機器を設置、目下、会員名簿、事務局会計、資料管理の部門で実用化に向けて準備中である。また、会員の電子メールアドレス簿を作成、全クラブへ送付した。

その他、委員会の主な活動は次のとおりである。

◇会計監査…1998年3月に中間監査を行った。

◇予算・財務…1998年3月、通常会計補正予算案を作成し、役員会によって承認された。

◇増設…会期中に2クラブを増設し、1クラブは認証手続き中である。

◇広報…ITC広報用パンフレット、リーフレットを作成した。

◇出版…今年度は、各種会則、会員名簿、「スピーチコンテストの規則と任務」、「役員及び委員長
の任務」、「議事法マニュアル改訂版」を出版した。

◇翻訳…「ITC 2000年機構改革」、「PEP」、「JOB DISCRPTIONS」など、例年に倍する翻訳作業を行った。

CMT(カウンセル運営研修会)は1997年11月5日、京都パークホテルにおいて3時間50分にわたり、13部門が出席者118名をもって行われた。

1998年6月3日リーガロイヤルホテルにおいて、公式訪問者メアリー・ムアハウスITC国際会長を迎え、4時間のCMTと2時間のPEPが実施され、次期役員と委員長の研修が行われた。また今大会終了後、2時間のRMTが同会場で行われる予定である。今年度の研修は、RMT2時間、PEP2時間、CMT合計7時間50分となる。

第16期日本リージョン役員会は、三宮会長のもと、日本リージョンの運営に惜しみない努力をした。



日本リージョン会則・常規修正

Amendments of Japan Region Bylaws and Standing Rules

会則・決議委員長 曾根悦子

第16回日本リージョン大会に提出された決議案は修正され可決されました。又日本リージョン会則及び常規は下記の修正が採択されました。

【決議案】 修正され可決

1999年世界大会が日本で開催されることに伴い、日本リージョンは、ホステスリージョンとしての責任遂行のため資金拠出が必要である、ので；そして

日本リージョンには、会員の教育促進を使用目的としてリージョン基金の積み立てがあり、この大会は日本リージョン会員の教育に多大に貢献すると考えられる、ので；更に

日本での開催は、同時通訳システムの使用、会場費の割高など、日本特有の経費支出が不可欠である、ので；因って

日本リージョンは、1999年世界大会のためにリージョン基金より補助金を拠出すること、を決議し、及び

その支出額は、500万円を上限とすること、を決議する。

但し、活動状況及び支出内容について、随時、会員に報告する。

【会則】

1. 会則第4条 財務 C項 日本リージョン基金

C項 日本リージョン基金：日本リージョン基金は教育促進を目的とし記念寄付金、遺贈その他の寄付金で成り立つ。また、資料販売の純益は、次年度の運転資金を除いて基金に入金されるものとする。基金の投資方針は金融機関の定期預金又は国債とする。元金は200万円とする。元金を減少させないかぎり、200万円を超過した基金を教育目的に限り使用することが許される。日本リージョン基金は役員会が管理する。

2. 会則第4条 財務 E項 経費

E項 経費：役員、常任委員会、事務局の経費、リージョン大会補助金及びスピーチコンテスト優勝者補助金は予算で定められる。

3. 会則第5条 選挙及び役員の任務 F項 任期 2.

2. 役員は連続した2期目の役職にも指名及び選出されることができる。いずれの選出役員も同一役職に連続して2期を超えて就任することはできない。

4. 会則第9条 委員会とその任務 A項 常任委員会

「13. 出版」、「15. 資料」、「16. 翻訳」を削除し、その後の番号を繰り上げる。

5. 会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務 5. 大会準備

5. 大会準備：大会準備委員会は大会コーディネーターの指示の下にリージョン会長の承認を得てリージョン大会のためのすべての準備をする。剰余金はリージョン通常会計に繰り入れる。

6. 会則第9条 委員会とその任務 B項 常任委員会の任務

13. 出版委員会の項、15. 資料委員会の項、及び、16. 翻訳委員会の項を全文削除し、その後の項の番号を繰り上げる。

【常規】

1. 常規 2. 年会費 a.

a. 年会費は会員1名につき4,000円とする。2つ以上のクラブに所属する重複会員は1名分のリージョン年会費を最初に入会したクラブを通じて納める。

2. 常規 8. ITC日本リージョン事務局 (ITC JAPAN REGION OFFICE) a.

a. 事務局は名古屋市東区葵3-25-20ニューコーポ千種橋101号に置く。

3. 常規 8. ITC日本リージョン事務局 (ITC JAPAN REGION OFFICE) c. 1) 2) 3)

c. 事務局の各部署は事務局長の管理の下で、各部署の指示により次の業務を行う。

1) 出版

(1) リージョン会報を除く日本リージョンの教育資料の出版の任務に当たる。

(2) 出版する資料のレイアウトをし、印刷所から費用の見積りを取って事務局長に報告する。

(3) 必要に応じて、事務局長と相談の上、会長の承認により監修者を依頼できる。

2) 資料

(1) ITC、日本リージョン資料及び物品の管理、維持、販売の任務に当たる。

3) 翻訳

(1) ITC教育資料、コミュニケーター、及びオールクラブメーリングの翻訳の任務に当たる。

4) 以下現行通り

4. 常規 8. ITC日本リージョン事務局 (ITC JAPAN REGION OFFICE) d. e. f. g.

d. 事務局長 (OFFICE MANAGER) 及び経理、出版、資料、翻訳の部長はリージョン役員会の承認を得て会長により任命される。任期は1年とする。ただし継続して任命されることができる。他に事務処理のため事務員を置くことができる。

e. 事務局の部長を務めた会員は、資格認証課程に於いては、リージョン常任委員長と同格に認定される。

f. 運営費は、リージョン通常会計から賄われ、家賃、管理費、人件費、交通費等、事務局に関する一切の活動費とする。

g. 経理部長はITC日本リージョン事務局用に口座を設ける。

委員会年次報告

Annual Reports of the Committees

資格認証委員会

委員長 大野 三恵子

資格認証委員会は、今期リージョン会報1号に掲載した方針に沿ってスタートしました。委員会は、委員が遠隔地の為、全て通信により行いました。

1997年11月5日、1998年6月3日、CMTに於て研修を行い、各カウンスル資格認証委員長と話し合いました。その後の質問に対しては、ITC本部やカウンスル委員長と通信で連絡を取りました。

カウンスル及びクラブの委員長の熱心な指導のもとに、今期1998年4月30日現在、コース1が18名、コース2が25名、コース3が8名、合計51名が認証状を受け取りました。

リージョン大会では105名の申請者があり、3日間にわたってサインを行いました。その中でも評価の必要な申請者には、リージョン委員とカウンスル委員長が2名ずつ評価者となりサインを行いました。

アメリカの学校では殆ど資格認証課程が設けられているそうですが、これは個人が自己啓発をはかろうとした時、自分がどの課程をマスターしたのかという目安になり励みにもなります。今後も皆様が課題に挑戦されることを希望します。

増設委員会

委員長 田口 邦子

今期は各カウンスル共ベテランの増設委員長を中心に大いに活躍され、三つの日本語クラブが誕生するという大変嬉しい結果となりました。これは正に、メアリー・ムアハウス国際会長の今期のテーマ「夢を実現し責任を受け入れる」を実行されたものと思います。

先ずNo.5が3月24日、フルメンバーで「阿波クラブ」をチャーターされました。遠隔地のご苦労もありましたが、徳島クラブの絶大なご支援の賜と深く感謝申し上げます。

次にNo.1が4月9日、「岡崎クラブ」を会員数26名でチャーターされました。ゼロからの出発でしたが、増設委員会の綿密な計画と準備が実を結び6年ぶりの増設となり喜びも一入でした。

三つめはNo.8が慎重に進められ7月7日「アクア千葉クラブ」を「量より質」と熱意ある19名の会員でチャーターされました。是非意欲的なお友達のご紹介をお願いします。

No.2、No.3はセミナーや模擬例会をされ大勢の参加者を得ましたが増設には至りませんでした。

No.4は働く女性のクラブをとという大変良い着眼でしたが、増設には至らず会員増に終わりました。

No.6は昨年「枚方クラブ」が誕生し、今期は一服といったところでした。

No.7は出雲クラブを中心に10名程の入会希望があるので来期に向け大いに期待されます。

今期の大勢の皆様のご熱意とご協力で敬意と感謝をいたしますと共に、新クラブが今後立派に成長されますよう、来期の皆様方のご指導をお願い致します。

会員委員会

委員長 後藤 侑奈

会員委員会は今期の目標として次の3項目

1. 会員の保持と増強、
2. 少数会員クラブへの積極的な援助、
3. 会員にとって、リージョンの存在が身近になるよう努める

を掲げ、各カウンスル会員委員長に協力をお願いしました。その結果、1998年5月20日現在、会員数1,927名、クラブ数80クラブ、フルメンバークラブ16クラブとなり、今期初めより2クラブが増設され、151名が増員されました。

今期のリージョン短期目標の達成の一環として、会員の電子メールアドレス帳を作成し全クラブへ配布。また、書記、会計と協力して、報告システムの簡素化を計りました。

カウンスルからは、会員の状況についての報告書を3回受け取りました。

各カウンスル、各クラブの会員委員長及び会員の皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

【年次大会における表彰】

1. フルメンバークラブ 16クラブ

カウンスルNo.1：名古屋クラブ、錦クラブ、飛騨高山クラブ、ぎふクラブ。

カウンスルNo.3：姫路クラブ、しらさぎクラブ。

カウンスルNo.4：ひろしまクラブ、福山クラブ、岡山クラブ、徳山クラブ。

カウンスルNo.5：大阪クラブ、阿波クラブ。

カウンスルNo.6：京都クラブ、奈良クラブ。

カウンスルNo.7：松江クラブ。

カウンスルNo.8：東京クラブ。

2. 20年継続会員数 31名

カウンスルNo.1：錦クラブ2名。

カウンスルNo.2：イースト神戸クラブ2名。

カウンスルNo.3：関西クラブ3名、芦屋クラブ8名。

カウンスルNo.5：大阪クラブ15名。

カウンスルNo.8：彩玉クラブ1名

3. 30年以上継続会員数 14名

カウンスルNo.1：名古屋クラブ8名。

カウンスルNo.2：阪神クラブ4名、六甲クラブ1名。

カウンスルNo.3：関西クラブ1名。

広報委員会

委員長 黒瀬 真紗子

1. 一般社会にITCをより解り易く紹介し、ITCへの認識を深めてもらうため、外部に向けての広報資料を新しく作成した。

リーフレット3000部、パンフレット1000部を広報委員会を通じ配布。

2. 会員が地域社会へ自発的に参加するよう推進した。

(1) 地域で活躍のメンバーの自主申告を企画、これは、会員がI T Cのトレーニングで得たものをいかに地域社会へ還元しているかを紹介する目的で行った。

(2) 「I T Cを20文字で表現する」標語の募集を行った。応募作品24点より5点選出した。

【優秀作品】

『I T Cはあなたの可能性を開く扉です』 カウンسلNo.5 徳島クラブ新居曜子さん作

【入選作品】

No.1… I T C、世界をつなぐコミュニケーションの輪

No.2… Spice Up Your Life with I・T・C

No.4… I T C 個性出し合い響き合い

No.7… I T Cで学ぶ、人の話(わ)・知恵の輪・地球の和

これらの広報活動を通して、会員の意識がたかめられました事を確信します。

I T C基金委員会

委員長 伊庭文子

当委員会は、I T C基金委員会の方針に従い、その目的・種類につきリージョンメール及び各カウンシル委員を通じて、カウンシル例会での懇切な説明により、会員のご理解を頂いた結果、5月6日現在次の通りの集金を得た。

1) 任意の寄付 68クラブ(80クラブ中) 合計801,361円

2) Eピン220ヶ 合計715,000円

3) 総合計 1,516,361円をブライアントI T C事務局長宛送金した。

本年は、1999年世界大会日本開催をひかえ、出費が重なる時でありましたのに、基金の目的を理解され、御協力頂きました各カウンシルの委員の方々、及び、会員の皆様方本当にありがとうございました。

I T C基金明細

カウンシル	任意の寄付	クラブ	Eピン	合計
No. 1	105,300	9/12	42,250 (13ヶ)	147,550
No. 2	58,850	6/9	13,000 (4ヶ)	71,850
No. 3	106,581	8/8	84,500 (26ヶ)	191,081
No. 4	128,450	11/11	87,750 (27ヶ)	216,200
No. 5	89,150	8/11	169,000 (52ヶ)	258,150
No. 6	85,300	9/9	208,000 (64ヶ)	293,300
No. 7	98,800	7/8	110,500 (34ヶ)	209,300
No. 8	128,930	10/12	ナシ	128,930
合計	801,361	68/80	715,000 (220ヶ)	1,516,361

日本リージョン事務局報告

Japan Region Office Annual Report

事務局長 鶴 飼 恵津子

1989年事務局が正式にその活動を開始した当時会員数は、900人でした。それから9年後の1998年、会員数は1900人を越えました。その現状に合わせて事務局のあり方も変わっていくべきです。そのために16期リージョン大会に事務局に関する「修正案」を出し会員の賛否を問いました。ご理解くださいました会員各位に感謝し、業務については事務的に、業務にたずさわるスタッフは協力して努力いたします。

【事務局活動報告】

- 1) 事務局管理体制の整備、2) コンピューターの活用を念頭に置き活動した。
- ・榎村出版委員長は資料棚卸し資産が470万円余あることを考慮して必要最小限の出版にとどめ、経費節減に努めた。
 - ・小笠原資料委員長は2期にわたり在庫管理と会計処理に当たり、1993年に遡って商品管理帳を作成した。今後コンピューター活用の最大の力となる。
 - ・奥田翻訳委員長は大量の翻訳作業に加えて入力作業も過重な負担だった。改善が今後の課題となる。
 - ・江崎事務局経理も2期にわたり経理事務の能率化に力を発揮、本部への送金を担当した。
 - ・コンピューター活用 資料目録は入力済み。会員名簿も入力中。資料管理のデータベース作成中。
 - ・1998年1月23日に日本リージョン事務局にコンピューター一式を導入・設置した。OSはウィンドウズ95、導入ソフトはオフィス97、会計ソフト、翻訳ソフト。
 - ・インターネットのプロバイダーはOCN。E-mailアドレスは itcjapan@lilac.ocn.ne.jp。日本リージョンのホームページは事務所移転後、正式に開設される。
- 今期、事務局運営にご尽力下さいましたスタッフ・皆様方に心より感謝いたします。

日本リージョン事務局 事務所移転のお知らせ

7月1日に従来と同じ建物内の101号室に移転しました。

電話番号も新しくなりました。十分ご注意ください。

〒461-0004名古屋市中区葵3-25-20ニューコーポ千種橋101号

Tel./Fax. 052-937-2468

第16回日本リージョン年次大会報告

The 16th Japan Region Conference Report

大会テーマ： 「可能性を求めて」

Seeking Possibilities

I T C日本リージョン第16回年次大会は1998年6月3日(水)、4日(木)、5日(金) 大阪リーガロイヤルホテルにて、メアリー・ムアハウス I T C国際会長を公式訪問者としてお迎えし、盛大に催されました。



メアリー・ムアハウス国際会長と三宮会長



リージョン役員の皆様



公式訪問者を迎えて



入場風景



バンケットのメインテーブル



ビジネスセッション



エンターティメント

ビジネス

4日、5日とも数多く提出されていた会則修正案の審議が行われました。質問も積極的になされたものの時間が十分とれないため、残念な面もありました。

全体としてビジネスもスムーズに進行し、計画通りに会が運営されていたのは、日頃の訓練の効果だと思えます。

たった年に1回のチャンス、これからも会員にとって、可能性を求める場であってほしいと願っております。その為にも、よく議事法を勉強してリージョン大会に臨みましょう。

スピーチコンテスト

それぞれの予選を勝ち抜いてこられた方々のスピーチはさすがと感心するものでした。私たちITCのスピーチの技術も年々向上し、それぞれ、個性豊かなスピーチに、皆様楽しい時を過ごされたことでしょう。

—入 賞 者—

[英語の部]

1位 乙野靖子(北摂クラブ) Subject: Independence

Title: I Hope That My Independence Day will Come Soon

2位 小菅あけみ(サンデークラブ) Subject: Choose Title: How to Get "JOY"

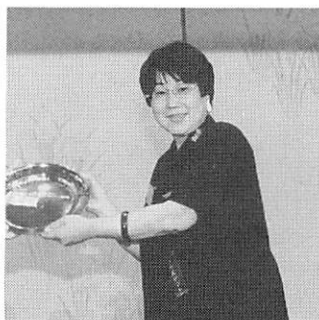
3位 バルク良子(神戸クラブ) Subject: My Friend Title: Glorious Life

[日本語の部]

1位 岩佐圭子(東京クラブ) 論題: 頭脳 題目: 思考回路

2位 松尾京子(西宮クラブ) 論題: 純情 題目: 蝶のお色直し

3位 藤原文子(都クラブ) 論題: 遊び心 題目: 私のシングルライフ



英語の部優勝 乙野靖子さん



日本語の部優勝 岩佐圭子さん

教育セッション（第1日目）

A. フォーラム「魅力ある将来のITCを考える」

東山クラブ 松本紀子

パネリストにメアリー・ムアハウス国際会長をお迎えして、他4名のパネリストによるフォーラムが行われました。各パネリストから

1. ITCに於いては、組織や運営上の問題点の改革が求められているのに大きな変革がなされていない現状を捉えて具体的に実現可能な提案があった。例えば、役職及び委員会を減らし作業をシンプルに、研修時間の見直し、仕事を持つ会員の会合の持ち方などなど。
2. カウンシル例会のプログラムは会員のニーズに応じ、より専門性を持った複数のプログラムを準備し、会員が選択出来る様にする。資格認証制度は社会的に認知される様に内容の充実を図るべきという提案があり、フロアーからも核心にふれる質問が出された。

メアリー・ムアハウス会長より「日本リージョンは本部に拘束されることなく日本リージョンの実情にそって柔軟性を持たせても良い」という返答を得られたことは今回のフォーラムの収穫であった。

B. ワークショップ「100人のためのスピーチ・ワークショップ」

芦屋クラブ 山中恵枝

舞台演出家の三田地里穂先生を講師に、事前に「スピーチ課題・A（男女間の友情は成立する）」、「スピーチ課題・B（男女間の友情は成立しない）」の2組みに分けられて、各々2分半スピーチを考えてくる宿題があたえられておりました。尚、その際スピーチの構成に関する4セクション（1. イントロダクション、2. テーマ、3. 本文、4. 結論）の資料も添付してありました。当日はタイマー、スピーカー等を決めた後、それぞれのスピーチに対して講師よりの質問やご指導がありました。例えば、スピーチに入るまでの身振り（走って演台へ行く・前かがみで行く）や、スピーチ後の態度（ため息をつく）などのメモを渡され、その通りの行動をとり、それにたいしてのご指導がありました。「作業しながら学ぶ場」というワークショップそのもので、先生、参加者全員が活気に溢れていました。

C. 講演「フランス料理よもやま」

奈良クラブ 佐藤和子

料理は、その国の気候・風土・歴史や文化が生み出した芸術と言われています。芸術・高級料理と言われるフランス料理は、ホテル・レストランで熟練した風格ある技術を駆使して作られ、食する料理と私は思っていました。

この度のリーガロイヤルホテル総料理長・米津春日様のご講演はフランス料理の歴史的背景と過程、香辛料など食材やメニューの見方などフランス料理の基礎的知識を先生の豊かな経験に裏づけられた多様な内容で、エ



講師：米津春日様

ピソードをまじえ楽しいものでした。翌日、昼食で頂きました「海老入りスティック状の春巻き」などのレシピの説明や質問の時は先生とメンバーとの間に和やかな一体感を感じました。

風流・風雅という芸術的美しさを求める日本料理がある我が国に明治以降、フランス料理が絶妙な味わいの料理として西洋料理の中心的存在になった成果を再確認出来た教育セッションでした。

D. ワークショップ「わたしってどんな人？」—性格テストを使って—

六甲クラブ 村田 昭子

このワークショップでは、精神科医である岩瀬絢子リーダー（六甲クラブ）の指導により、「矢田部ギルフォード性格検査」（YG）と「東大式エコグラム」（TEG）の2種類の性格テストが行われた。それぞれ、120項目と60項目の質問に対して、あまり深く考えず第一印象を大切に回答する（はい、いいえ、どちらでもないの3つから選ぶ）というものであった。その集計とそれをもとにして自分のプロフィールをあらわす図形を描く作業は、各自が行った。

テスト終了後、配られた参考資料を見ながら、診断と解釈、分類と性格特徴などの説明を受け、次のような話を聞いた。

◇性格は、遺伝と育った環境によって作り上げられたものである。

◇性格テストを用いる目的は、自分の性格や心の動きを正確に知ることによって、自己成長し、対人関係を円滑にする為である。

◇性格テストは、その人の人格のある断面をみているに過ぎない。などなど。

最後に、リーダーが次の3点を強調してワークショップは終了した。

- ①向き不向きとか、得な性格、損な性格とかはあるが、性格に善い悪いはない。
- ②性格は、変わり得るものである。
- ③自分の性格を知ることは、人生をより良く生きるための助けになる。

E. ワークショップ「短い言葉（五・七・五）によるコミュニケーション

境クラブ 作野 まり子

「いろはにほへと・ちりぬるを」（色は匂へど散りぬるを）、「狭い日本・そんなに急いで・どこへ行く」。空海法師の昔から、交通標語の現代まで、日本人は五・七・五のリズムなくしては、自分の思いを表せないようです。そこで、この手を使わない手はありません。よりチャーミングに、よりエレガントに、コミュニケーションをとる為にも。さあ、レッツ連歌、レッツ俳句。みんなでやれば、大丈夫。の、ファンファーレが、川島美美子リーダー（松江クラブ）より鳴り響き、短冊など用意された5テーブルに各自、分かれ、楽しいイラスト入りの資料のもと、ワークショップが始まりました。初めに、五・七・五の短詩型の歴史を学び、古事記が連歌の始まりであること、閑吟集の中には、歌のエッセンスが集まっていること、などなど、を学び、その一つ「梅花は雨に、柳絮は風に、世はただ嘘にもまるる」の一例が、紹介され、会場からは感心の溜め息。又、万葉集の秀作の模倣と思える歌の、比較を学んだ後、「真似る、即ち、まねぶ、学ぶなのです。さあ、皆

さんも、まねぶから入って、一句作ってみましょう」と、各テーブルで実践開始。その様子を静観中のリーダーより、「五・七・五・指を折れども・まとまらず」と一句。10分後、全員の中より、優秀句を発表し合い、結果、「我が人生ひねもすのたりくらりかな」を選抜。続いて川柳、連歌を学び、再び挑戦。そして、秀作選歌。と、終始、分かり易い資料、解説の中、ユーモアと、遊び心のいっぱい詰まった、爆笑の一時間半でした。

教育セッション(第2日目)

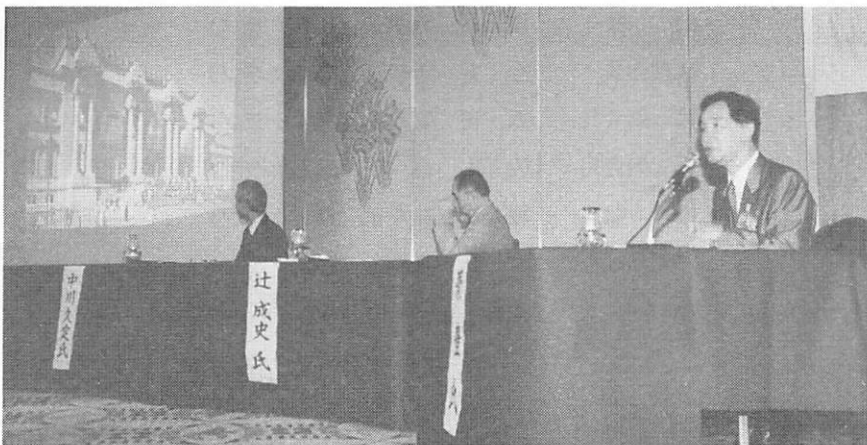
フォーラム「21世紀の文化的可能性を求めて—美術館／都市／田園」

東京クラブ 岩佐圭子

大阪市立美術館館長の養豊氏をモデレーターとして、大阪大学名誉教授の辻成史氏と京都国立博物館館長の中川久定氏をパネリストとして構成されたフォーラムは充実していた。3人の講師は、それぞれの専門分野から、美術館と都市、都市と田園とのかかわり方などについて、スライドでわかりやすく説明しながら、18世紀の発生期から現代を経て21世紀へと受け継がれていく文化的可能性を色々と提起して下さった。

養氏は、美術館は研究と教育の場として美術品を展示するだけでなく、市民の憩いの場として、まわりの自然を生かしていかなければならないと、21世紀の美術館の果たす役割について述べられた。辻氏は、中世のヨーロッパに端を発する都市と田園とのかかわり方から、日本の自然の今昔、特に今日の武蔵野の荒廃を例に、自然もつくられるものであり、人間との共同作業を必要としているとして、21世紀への警告を述べられた。中川氏は、18世紀に描かれた絵画から文明と自然が共存するヨーロッパの市民生活やルソーの自然観を解説され、絵画とのコミュニケーションを通して、私達ITCの21世紀の可能性に対しても助言して下さった。

外部から講師をお招きしてのフォーラムは、大会プログラムとしては初の試みであったが、専門家の明晰な分析にふれることができ、意義深い、貴重な経験となった。



フォーラム

役員就任式

メアリー・ムアハウス I T C 国際会長がインストーリング・オフィサーとして第16期リージョン役員をねぎらわれた後、第17期リージョン役員を祝福されました。第17期役員の皆様、世界大会を控えて、特に忙しい年度になることは否めません。ご自愛の上、会員のため、よろしくお願い申し上げます。

無事就任式も終わりました。旧役員の皆様にご挨拶するとともに、新役員の皆様にも会員として協力いたしましょう。

I T C 日本リージョン第17期テーマと選出役員

テーマ：「誇りをもって未来へ」

Theme: "To the Future with Pride"



会 長： 江 藤 万里子 (関西クラブ)
次期会長： 今 井 千代子 (青山クラブ)
第一副会長： 西 田 富美子 (平安クラブ)
第二副会長： 佐 山 昌 子 (岡山クラブ)
書 記： 堀 江 祐 子 (東京クラブ)
会 計： 大 薮 京 子 (平安クラブ)

“皆様、ありがとう！”

大会コーディネーター 加藤 啓子

コ・コーディネーター 堀 容子



久しぶりに大阪で開かれました第16回リージョン大会には、ゲストも含めて約870名の方々のご出席をいただき無事終えることができました。皆様のご協力の賜物と深く感謝いたしております。

こうした大きな会を成功させるには、それぞれの分野に携わる方の綿密な計画と熱意、そして活発な行動力を必要とします。

各委員長のもと、すべての委員が力を惜しまず、大会の成功に努力して下さいましたことは、さすがITCの会員と感心し、お互いの深いコミュニケーションがあつてこそと、改めて日頃のつながりの大切さを身にしみて感じました。おかげさまで私ども二人とも楽しくお役をさせていただきました。

おびたしい数の連絡もファクシミリの普及により速やかに正確に行うことができ、まさにFAXさまさまでした。

1999年神戸で開催されます世界大会の前年祭ともいえる今回の大会が華やかな中にも秩序正しく行われましたことに対し、会員の皆様は言うに及ばず、関係者各位にも重ねて厚くお礼申し上げます。

リージョンよりその後のご報告と感謝

日本リージョン会長 三宮 晶子

ミネアポリスの世界大会で日本リージョンは表彰を受けました。President Award としてオリンピック選手の様な大きなメダルを戴きました。3クラブの増設について\$300、会員の増加について\$100の奨励金がありました。

ITC公式訪問者のリージョン大会についてITC役員会とリージョン役員会宛のレポートを受取りました。大変良い評価を頂きましたのでその一部をご紹介します。

“大会は全ての部門で素晴らしい出来ばえでした。メンバー一人一人がその役割を完全に果たしていたと思います。”

RECOMMENDATIONS:

This region did an exceptional job in planning every detail of their conference. This officer could not find anything that could have been handled better by any member.

第16期もあと数日で終わり、次期へ引き継いでまいります。この一年間、会長を支えて下さいました役員、常任委員会、大会準備委員会、カウンスル会長、事務局そして会員お一人お一人に心から感謝申し上げます。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。有難うございました。

ITC世界大会1999

ITC World Convention 1999 Japan

1999年を目指して—その3



世界大会コーディネーター 新木 昌子

今回は現地プログラム教育委員長とウエルカムパーティー委員長のお二人に記事を書いていただきました。

現地プログラム教育委員会委員長 小谷 貞子

現地プログラム教育委員会ってなに？とお思いの方も居られるのではないのでしょうか。ご存じのようにITC年次大会は、ITC役員会がとり行うものです。日本リージョン大会に大会準備委員会がありますように、日本リージョンは1999年世界大会の準備を担当することになったのです。現地プログラム教育はその1つの委員会で、ITCプログラム教育委員長を補佐し、教育セッションのうちの4つ5つを準備するという任務を与えられています。来期の役員会が動き出すのがミネアポリス大会後ですから、その発表が待ちきれずに私達は既に2回の委員会を開き、日本文化の一端を海外からの参加者に知ってほしいと、知恵を出しあっています。又、同時に日本のメンバーは、どんな教育セッションを望むかも答申するつもりです。どうぞ皆様も(1)日本文化を紹介するワークショップ、(2)我々はどんな教育セッションを受けたいかについてアイデアをお寄せ下さい。

今度の大会では、通訳が大切な要素になると思います。出来るだけ多くのワークショップに通訳をつけて参加者全員がプログラムを楽しめる大会であるようにと通訳委員会が準備を始めています。

アイデアのご協力はハガキで9月25日までに下記へお送り下さい。

〒603-8106 京都市北区紫竹下長目町10 小谷貞子迄。

みんなで踊ってなごやかに—

ウエルカムパーティー委員長 柳川 公子

世界大会に参加のお客さまをお迎えして、日本リージョンが主催するウエルカムパーティーは7月17日(土)午後7時30分から10時までポートピアホテル「大輪田の間」で開催されます。

「日本の民間芸能」をテーマに、和太鼓の演奏とお琴やお茶のお点前で日本情緒を盛り上げて外国からのお客様をお迎えしようと考えています。また集まった会員皆で踊りの輪をつくって交歓いたしましょう。

日本の会員の皆様は出来るだけ日本の夏のきもの(ゆ・か・た)を着て参加して下さい。踊りの輪の中で世界の仲間と心を通わせることが出来ることでしょう。簡単なスナックと飲み物をご用意いたします。みんなで一緒に楽しく踊りましょう！

アクア千葉クラブ

アクアラインに踊る新しい波

アクア千葉クラブ会長 三枝道子

10ヶ月前までは名前も知らなかった20人の会員がチャーター式典に向け、志を一つにしてその準備に余念なく励みました。

「ITCって何かしら?」「何をする会なの?」で始まった第一回の説明会から今日に至るまで会員同士のコミュニケーションはこんなにも強く深まっているのかと、その姿を見て感動いたしました。

聞き慣れないITC用語に囲まれて繰り返される言葉のラリー、諸先輩の美しいスマッシュが光ります。いつの日か私たちも、と希望と期待で胸が踊ります。東京湾を横断するアクアラインの開通と時を同じくして設立された「アクア千葉クラブ」。

増設委員長・関稔子さんの私たちを誕生させて下さるまでのご苦勞を思うと感謝の念にたえません。お力をお貸し下さった皆様、本当にありがとうございました。そしてこれからも宜しく願い申し上げます。

子供たち、ありがとう!

カウンスル№.8 増設委員長 関 稔 子

「千葉市に日本語クラブを作って下さい」との声を聞いたのは昨年6月カウンスル最終会合の日でした。千葉県には柏市に4クラブありますが千葉市には無く、ご要望に答えましょう、と直ちに活動を始めて以来一年、何かしら夢中で走り続けたような気が致します。幸い新クラブの核となる三枝さんが元ITC会員でしたので順調に進みましたし、強力な7人のサポーターが「使い走りでも何でもするわ」と最後まで支えて下さったことが何より嬉しく心強い限りでした。

この広い宇宙の星に生まれ、ITCという共通点で結ばれ、感激を共有できることは何と素晴らしい事でしょう。私は思いがけず母親の醍醐味を味あわせて頂きました。ITCが無ければ出会うことすらなかったアクア千葉の可愛い子供たち、幸せな一年を共に過ごせたことに深く感謝致します。子離れの時が刻々と近づきましたが、五年十年後の成長と、いつかは皆さんが子育てをして下さる事を楽しみにしております。



皆様、リージョン会報3号で柏クラブの中野洋子さんの記事を掲載いたしましたので、アメリカに日本人のメンバーによる日本語クラブがあることをご存じのことと思います。日本リージョンに英語のクラブがあり、アメリカに日本語のクラブがありと大変興味深いですね。

この号では今期会長(チャータープレジデント)を務められましたミコ・ヘンソンさんを「ITC ひ・ろ・ば」のお客様としてお迎え致しました。

皆様方もアメリカに行かれる機会がありましたら、サウスベイ・ジャパン・コネクションをぜひ訪問してみてください。また、お便りなどをお出しになって交流を深めていただきたいと思います。

日本リージョンの皆様へ

ミコ ヘンソン (有元美佐子・ヘンソン)

アメリカ唯一の日本語クラブ「サウスベイ・ジャパン・コネクション」も誕生一年を迎え新しい役員を選出。発足一年目のテーマは「冒険への船出」でしたが、新年度の会長テーマ「一人は皆の為、皆は一人の為/One for all, All for one」のもとに第二步をふみだしました。

14名で発足したクラブですが、予想通り帰国、転勤等ですでに6名やめ、6名の新会員をいれて、さっそくテイク・ファイブを戴いたものの、クラブ員数はおなじ。この秋の年度からは、あと3名がやめる予定ですので、新会員獲得と会員の教育はこのクラブにはついてまわる課題のようです。昨年12月にはロスアンゼルス日本語地方紙新聞にとりあげていただいたり、4月には日本語テレビ局で紹介していただき、見学者もふえていますので、希望はあります。

ITC未経験者ばかりで寄り集まった発足当時は、本当に西も東もわからず闇夜で手探りしている心細さでしたが、昨年は世界大会に出席して日本リージョンの方々にお目にかかり、お話しを聞いたり資料をいただいたり出来ました。また千種クラブの棚橋さんとホテルで同室出来たのでいろいろわしく参考になるお話しも聞くことができました。その後、神戸クラブのバルク良子さんが日本に帰国する前にわが家に一泊してくださり、こちらの会員のかたがたと交流してくださり、大変参考になりました。又、元千葉クラブの会員であった三原貴美子さんが入ってくださってから、やっとクラブ活動も軌道に乗ってきた感じがあります。本当に経験者が一人でもいるということはこんなに違うものかと実感しています。

今年に入ってから前号に載ったように、柏クラブの中野洋子さんと千葉クラブの谷口易子さんが訪問してくださいました。当クラブの会員が日本の会員と直接お会いして交流することは私が百

の言葉で伝えるよりも効果があります。当クラブはロスアンゼルス郊外で、LA飛行場の近くです。どうぞこれからも日本の会員が当クラブを訪問して下さるようお願い申し上げます。気軽にお電話ください。いつでも大歓迎です。又お知り合いの方でロスアンゼルス在住の方がおられましたら、このクラブのことを紹介していただければ嬉しく存じます。

連絡先：

チャータープレジデント(1997～1998)：ミコ・ヘンソン Mikko Haggott-Henson

Phone: (310) 378-3550; Fax: (310) 375-0276; E-mail: mhaggott@aol.com

会長(1998～1999)：村井啓子 Keiko Murai Phone: (310) 325-0655; Fax: (310) 325-4213

指の使い方のいろいろ

自分自身をさす指も、国によって異なる。我が国では、一般に人差し指を鼻に向けるが、欧米では多くの場合、胸に親指かこぶしを当てて表現している。やたらと顔に手をやることを嫌うという習慣が、そうさせているのである。

手をやるといえば、頭をなでられるのを極端に嫌うのが、タイなど東南アジアの仏教国である。頭は、仏さまが宿っている神聖な部位だと考えられているからである。そんなことも知らずに、日本からどっと押しかけた観光客が、子どもの頭をなでまわしてしまっ、とんだところで経済摩擦ならぬ文化摩擦を繰り返している。

数を勘定するときにも、指が使われるが、この使い方にもいろいろな約束がある。日本では、1は人差し指、2は人差し指と中指、となっているが、フランスでは、1は親指、2は親指と人差し指になっている。また、インドでは、指の腹にある関節まで使って数えるので、片手でも結構たくさん数を勘定することができる。

ところで、外国の例を引くまでもなく、日本国内でさえ指使いの習慣が異なるものがある。子どもがよくやるジャンケンである。東京では「チョキ」を人差し指と中指で表現するが、東北地方では、親指と人差し指で表す所が多い。

何でもないことかもしれないが、手の使い方一つを見ても、「ところ変われば…」ということが実によくわかる。言語を知るということは、その国の文化を知るといことぐらひは、今日では常識になっている。しかし、音声や文字だけでなく、行動言語にもそれぞれ独自の社会習慣的な約束があるということは、案外見落とされがちである。とかく万国共通だと思われがちの身振り、手振りにも、言語ごとに異なるコード(規範)があるということ、これからの国際社会を生きていく人たちは、認識しておく必要があるのではないだろうか。

城生佰太郎(じょうお・はくたろう)著「日本語ちよつといい話」より

京都でまたみなさまとお会いしましょう！

Dear Members こ・ん・に・ち・わ へんしゅうです。



リージョン編集者 藤原 栄子

リージョン会報も今期は、これで最後となりました。会長の方針、会員のニーズ、そして私達にも良い訓練の場であってほしいということを念頭に、努力してはまいりましたが、まだまだ思い残すことがあります。会員の皆様方は興味をもって読んで下さったでしょうか？これが常に私の関心事でありました。折に触れて会員の方々からいただきました励ましのお便り、それがどんなに私達の力となったことでしょうか。会報の編集という任務を通してより多くの友情が得られましたことも、うれしいことでした。これも、会長、スタッフ、「印刷工房くどう」といった皆様方の心強いサポートがあったからこそと感謝いたしております。

会員の皆様、一年間のお付き合い、ありがとうございました。

編集スタッフより

◆ITCの活動を知るよい機会でした。と同時に編集の面白さとむずかしさ、もどかしさを感じながら、辞書、メガネ、赤鉛筆を手放せない年でした。(落合みさ子)

◆読むこと、書くこと大の苦手の私が編集なんてと思いつつ、表紙を決める所から始めて、原稿の依頼、頁数、レイアウト、校正等々、編集のノウハウを勉強させていただき、又一つ新しい扉を開くことが出来ました。この一冊の中に私の責任も何%かはかかっていると思うと、期待と不安で発刊を待ったのも今は楽しい思い出です。(塩崎真喜子)



(左より落合、立花、塩崎)

◆リージョン会報というのは紙面の中で会員がリージョンの活動を知り、成果を確認できるどころです。また記事を通した会員同士の交流の場でもあり、自身がリージョンとのかかわりを再発見することも出来ます。その編集に参加させていただいたことは素晴らしい経験でした。(立花眞琴)

印刷：印刷工房くどう・大阪

I T C日本リージョン声明文

I T C日本リージョンの使命は、I T Cの目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供し、リーダーシップをそなえた成熟した社会人を養成し社会に貢献することにある。

Mission Statement of Japan Region

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.
